



水面に葉を出している水草は、水かさが増えたらどうなるの

水草も、太陽の光で光合成を行っている

小川や、池、ぬまなどの水面には、いろいろな水草が葉を広げています。水草も陸上の植物と同じように、日光の下で、葉で二酸化炭素と水からでんぷんなどを作る、光合成を行っています。そのため、太陽の光をたくさん受けられるように、葉を広げているのです。大雨などで水かさが増え、水面が高くなると、水面に広げていた葉は、水の中にもぐってしまい、葉は光合成ができなくなります。こんなとき、ヒシやガガブタのように、くきをのばして水面にういている水草は、くきをもっとのばします。スイレンのように、葉のえをのばしている水草も、えをのばします。

1日で、くきが15センチメートルものびる

陸上の植物のくきや葉のえは、成長してしまったものは、もうのびません。水草は、たいてい、水面の高さの変化で、葉が水中にかくれるたびに、くきも葉のえも、のばすことができます。ガガブタのくきは、1日で

15センチメートルものびた記録があります。

水の浅い所に育つオオフサモなどは、水面が上がって、葉が水中にもぐってしまうと、広げていた葉をすぼめ、葉の間に空気をためて、水面が下がるのをまっています。いつまでも水面が下がらないと、葉はかれてしまい、すぐ水面までとどく新しい葉が出てきます。

(監修・矢野 亮)

